

呉まちなか公共空間デザイン会議（第3回） 摘録

- 1 日 時 令和6年4月19日(金) 9時30分～11時30分
- 2 場 所 呉市中央公園8ブロック売店
- 3 概要・骨子

9:30

【新原市長挨拶】

皆様、おはようございます。本日までご出席を頂きまして本当にありがとうございます。傍聴でご参加を頂いている方も関心を持って頂き、お礼を申し上げます。

本日の会議は、公園で開催をさせて頂いていますが、心地良い風が入り、たくさんの緑が見えるこの場所の素晴らしさを改めて感じているところです。

これまでの2回の会議では、皆様から多くのご意見を頂きました。市役所が何か青写真を描いて、ご承認を頂くということではなく、皆様の思いを集約して、これからの取組の方向性をとりまとめていけることに非常に感謝をしております。

この取組を市民のため、社会のため、ここに来られる全ての人のために活かしていきたいと思えます。実現が難しいと思えるようなご意見であっても、それを乗り越えていくのが市役所の職員の仕事でございますので、本日も活発な意見交換を頂くようお願いいたします。

9:40

【議事(1), (2)】

議事(1)に関して田中座長より説明（参考資料3）

議事(2)に関して谷川委員より説明（参考資料4）

【議事(3), (4), (5)】

議事(3)～(5)に関して事務局より説明（資料2, 資料3, 資料4）

10:30

【質疑・意見交換】

委員からの主な意見は次のとおり

・呉まちなか公共空間デザイン計画（素案）について

○

本日の会議場所がとても素敵で、実際にここでもっと色んなことができるのではないかと感じている。

例えば、学会などの会議の開催が考えられる。会議を実施し、その後の交流会も含めて使ってみたいと思った。また、バーベキューなどが気軽にできる場所としてもいいのではないかと思う。そうしたとき、この公園のコンセプトとして、普段できないことが、ここに来ると実現できるといった考えがあればよいと感じた。これから取り組む社会実験では、会議や交流の場としても使っていけるとよいのではないかと思う。

また、南北に八つのブロックがあるので、様々な活用が想定でき、自動運転の開発拠点の施設などイノベーション拠点として使うことも考えられる。市民の普段使いとあわせて、企業の普段使いができるような空間として利用していくと、この空間がまちの拠点となると思う。

普段できないことをこの空間で叶えることができ、こんな挑戦ができる、これも呉の一つの魅力であり、他の都市にはこんな空間があるのかという挑戦状を叩きつけるくらいのメッセージが出せたらいいと思った。

空間を運営していくに当たっては、お金をどのように回していくかが論点になると思うので、そのようなことも踏まえながら取組を進めていけるとよいと感じた。

○

私は第1回目の会議で、日本中から人が来る場所となればよいということを提案したが、その際に、市長から世界中から人が来る場所として考えてほしいとコメントを頂いた。それを踏まえ、前回の会議では、グッゲンハイム美術館について提案をした。

この美術館を実現しようとするれば、非常に費用はかかるが、実現すれば本当に100万人の方が国内外から呉市を訪れると思っている。

先般、東京の日本食レストランで食事をしたとき、フランスの勤務から帰国された従業員の方の話を伺った。そのお店を利用されるフランスの方の多くは、日本へ来られた際に宮島や直島を訪れると伺った。

直島は、非常に小さな島で、民間事業者が芸術関係の取組を行っており、著名な方のアート作品も展示されている。外国の方にとってアート

というのは非常に共感を得るもので、そのような施設があれば、世界中の人が集まってくるのではないかと改めて感じた。

グッゲンハイム美術館ほどの規模ではないとしても、呉の美術館通りにブロンズ像が多くあるように、この空間も一帯的にアートを感じられるような空間として活用すればよいのではないかと思う。そうすることで、インバウンドの方々を含め、宮島などを訪れる方々が呉市を訪れるようになるのではないかと思う。

それと併せて、この空間一帯について、川沿いの空間を人が楽しめるような空間として利用していくことで、呉市外から来られる方と呉市民が一緒になって楽しめる素晴らしい空間になると感じる。

○

まず、いつもの会議室の雰囲気は少し緊張するが、今日のような会場で会議をすると、雰囲気が変わり、話をしやすくなると感じた。場所や空間はとても大切であると思った。

先程、普段できないことが実現できる空間という意見があった。花見、また、夏には、花火やバーベキューをする場所など、気軽に行って使える場所が、近くにあまりないと感じている。私は広に住んでいるが、そのようなことができる場所は、広公園のみであり、人が密集して使っている状況である。そのことから、自由な使い方ができる空間がまちなかにあるということは、とてもよいことだと思った。

例えば、三次市の「みよし森のポッケ」という木のおもちゃで遊ぶことができる施設がある。また、東広島市には大型遊具などがある「道の駅湖畔の里福富」がある。そこに行かないと無いものがあるため、少し遠いものの、休みの日に子供を連れて行くことがある。

わざわざ行きたくなるような、そこにしかない魅力がある、そういった場所ができると、とてもよいと思った。同時に、子育て中のママや学生たちが普段使う場所として、憩いの場としても使える場所になればよいと思う。

現在は南北に八つの区画があり、広大な空間があるからこそ、空間の使い分けができる。様々なことがこの空間一帯でき、そのときの自分の気持ちに合わせて様々な使い方ができる場所になればとても素敵だと思う。

現在実施されている、8ブロック売店建物を利用した実証実験では、一部囲いのある場所でサッカーをできる場所を作ったという話があった。公園内では、週末は小・中学生が増え、大きい子と未就学児などの小さい子が同じ空間で遊ぶことが危険であると感じたことも、過去にはあった。しかし、大きな子の遊びを制限すると、大きい子が遊ぶ場所がない。そのため、小さい子たちが安心して過ごせ、大きい子たちも安心できるゾーンができるとういと感じた。

様々な世代の人たちが空間を共有できるエリアや、それぞれの遊びに合わせたエリア、ワークショップなどをするエリアなどがあり、そこでの活動が互いに見えているような空間ができたら素敵だと思う。

○

これまでの会議では、インクルーシブな空間について提案をしてきた。資料3の5ページにある未来ビジョンのイラストに、ベビーカーを押している方の姿を描いたイラストがあるが、車椅子の方が使われているイラストがあることで、インクルーシブな空間であるイメージが伝わりやすいので、是非追加してほしい。

資料3の4ページにある、未来ビジョンのキャッチフレーズ案については、「OURS」がよいと思う。

○

この計画素案では、これまで私たちが提案してきたことやこの会議で提案のあった意見がしっかりと活かされている。

一点、8ブロック売店建物の実証実験を実施する中で感じたことであるが、今の建物は歩道側が背中になっており、もう少し樹木などを整理して、歩道と一体化している状態を目指していくべきであると感じた。道路から公園に入る際に直接的に入れず、一体感に欠けていると思う。再整備を行う際には、公園と道路が一体となって使われることを想定しながら、植栽計画やランドスケープ計画がなされるとよいと思った。

○

私は、幼少期から歌とダンスを習い、現在もそれらに関係する仕事をしているが、小さい子ども向けの歌やダンスの教室は需要がとても高く、平日でも多くの参加がある。

イベントといえば休日や週末の開催が多いが、ターゲットを絞ってイベントを平日に行うことも需要があると感じるので、そういったことも取り組める空間であればよいと思う。

○

昨日、昭和まちづくりセンターの1階でロビーコンサートがあった。

その演奏を聞くために、そこまで広くはないロビーの空間に、足を止めて演奏を聞かれた方が沢山いらっしやった。今はSNSなどを活用してライブ配信もできるが、生で演奏を聞けることはとてもよいと感じた。

音楽や芸術・アートに取り組まれている方々、また、特にそのような活動をしている若い人は、その活動を多くの人に見てもらえる機会が少ないのではないかと思う。

この空間に行けば、音楽を演奏でき、聴くことができる、また、芸術・アートを表現でき、触れることができる、このように、活動する人やこの空間を訪れる人に音楽や芸術・アートに関する機会を提供する場所や機能がまちなかにあれば、文化的な要素が高い自慢できるまちになると思った。

○

この界隈に住んでいる高齢者の方々の公園の使い道はどうだろうと考えた。マンションでは、自治会の組織が無い場合もあり、市政だよりなどが、配られてないケースもあると聞くので、高齢者が情報を収集できたり、交流できるような拠点となるような場所があったらよいと思う。

もう一点、資料3の5ページのイラストにも表現して頂いているように、この空間から海の方を眺めると、タンカーが見える。私は、これが呉らしい景色だと思うので、例えば、2～3階程度の高さから見渡せるような施設、カフェなどがあればこの景色が、活きるのではないかと思う。そうすることで、商店街にも人が流れて回ってくるのではないかと思う。

○

私が県外から広島に赴任して、初めて呉のまちなかを訪れたときに、まちの中心に川が流れ、その先にタンカーと海が見える景色を望み、これが呉の原風景ではないかと感じた。

資料3の5ページのイラストを拝見した時に、私の印象と重なったものが表現されており、大変驚いた。まちづくりをしていく上で、この原風景をすごく大切にされていると、このイラストを見て感じた。

資料3の4ページのキャッチフレーズについては、3案のどれが選ばれても素敵な空間になっていくと思う。

資料3の12ページのゾーンコンセプトについて、イノベーションが生まれるのは、異業種の方々、普段交流のない人たちの活動が混ざり合うことで、新しいアイデアが生まれ、そこからさらに面白いものが生まれてくるものであると思う。そうすると、このゾーンコンセプトが混ざりあう空間、そこをどうつくり込んでいくかが、このコンセプトの肝になってくると思う。

○田中座長

これまでの意見交換をとりまとめたいと思う。

まず、資料3の5ページのイラストに関して、未来の姿をわかりやすく示すために、このようなイラストが計画の中に位置付けられていることは、とても大事なことと思う。その中で、車椅子の方々を始め、より多様な方がこの空間を使っている姿を描く必要があるとのご意見を頂いた。

次に、導入を検討していく機能等についてご意見を頂いた。

一つ目として、音楽やアート、ダンス等の体験や鑑賞ができるような場所・機会が必要であるというご意見であった。

二つ目として、会議が開催できる場所になるとよいというご意見を頂いた。私も、そのまちを代表するような場所で会議を開催できると、とてもよいと思う。

三つ目として、高齢者が交流することができる拠点としての機能が必要ではないかというご意見であった。

四つ目として、民間事業者等が活動できるイノベーションハブのような機能があるとよいのではないかというご意見であった。

次に、空間の使い方に関しては、第1回、第2回の会議でもご意見を頂いているとおり、南北に八つのブロックの空間が広がっているので、この空間をうまく使い分けていくとよいのではないかというご意見を頂いた。違う目的でこの空間を訪れている人たちが、空間を共有しているということが、まちの本質ではないかと思っており、そういう事がここで実現できるとよいと思う。

そう考えると空間を使い分けていくことが必要で、例えば、遊ぶことに関しても、小さな子供と少し大きな子供と使い分けをきめ細かくできるといいと思った。

また、いろいろな方々が集まって、そこで交流し、活動が重なり合うことで、新しくアイデアが生まれると考えられるので、異なる目的での活動が重なり合う場所、そのような場に意義があるのではないかというご意見を頂いた。

加えて、道路と公園との境について、ランドスケープの観点を含めて、もう少し立体的にデザインがなされるとよいというご提案を頂いた。

最後に、未来ビジョンに関して、「普段できないことがこの空間であればできる」ということが考えとしてあり得るのではないかというご意見を頂いた。

また、キャッチフレーズに関しては、「OURS」にご賛同頂くご意見を頂いたが、私も「OURS」がよいと感じている。

・社会実験等の実施について

○

先程、現在実施中の8ブロック売店建物の実証実験の話伺い、やはり椅子とテーブルがあり、飲食ができることはよいと感じた。

ここのカフェも、常に誰か人がいることで、そこが公園の拠点となり得ると思う。ここに窓口みたいな機能ができれば、気軽に一声かけて組立屋台を借りて、自分の作品の販売であったり、ワークショップをすることもできるのではないかと思う。ここですぐに物品を借りることがで

き、利用申請もスムーズにできるようになるといいと思う。そういった場所をイメージして社会実験を行えるとよいと思う。

また、公園が綺麗であることがとても重要で、例えば、トイレトペーパーがない、トイレが汚れていると利用を避けてしまうため、将来的にそのような運営をされる方が公園の清掃等も含めて管理して頂けると安全面も含めてすごくいいと思う。

アクセスの問題では、例えば、広公園や呉ポートピアパークのように、駐車場料金もかからず、広くて1日過ごしやすいところを選ぶことが多い。駐車場が目的地の近くにあり、加えて、駐車場を利用する際に周辺の商店街などの情報がわかると、より気軽に、行ってみようかという行動に移せるのではないかと思う。

駐車場料金でいえば、子供を連れて遊びに出かける際に、1回100円～200円が、1週間では500円～1000円となることを考えると、特別な日しか出かけようと思わなくなる。今後の検討として、例えば、イベントの際には、空いている空間をうまく使い、駐車場を増やしたり、商店街と提携した料金サービスができれば、利用しやすい環境になると思う。

第1回目の会議で図書館から公園側へ渡れる橋があればいいとの意見があったが、小さな子どもを連れて公園と図書館を行き来する事は大変な事も多く、より気軽に本を読める場ができれば良いなと感じている。図書館の向かい側の公園に、カフェなどと連携した青空図書館があれば、子供が絵本を外でも読めて、図書館へ行くきっかけにもなると思う。

まちなか公共空間の取組が、商店街や図書館等とうまく繋がりをつくれるとよいと思う。

○

現在、8ブロック売店で実施している実証実験でも、人が常駐するような取組として、パークマネージャーの配置ができないかと考えている。物品等の貸し出しができるなど、常時誰かが居るということを目指している。植栽の手入れ等もできるのではないかと考えている。

先程ご意見のあった青空図書館については、街の森のアトリエにおいて、本を設置する形で実施したこともありとてもよいと思う。

計画では、川沿いの市営駐車場の公園空間化の話に触れているが、社会実験では、例えばその1区画をウッドデッキにして飲食店の席等に使うなどできれば、また新しい反応が見られるのではないかと思う。

○

この社会実験については、チャレンジというよりはトライとして、ハードルを下げ、自分がやりたいことと社会実験を結びつけるイメージで、「大丈夫、大丈夫、トライじゃけえ」といった仕組みができるかと思う。

仕組みはすごく大事だと思う。おそらく、行動したい人が一歩踏み出すことは、すごく難しいと思うので、誰でも目につくようなところに、その仕組みが見えていて、「私、トライしたいかも」と、市民一人一人がここでの取組を自分事にしていくようになるのではないかと思った。

○

こういった公園の中で、本日のような会議があるというのは、本当によいと感じている。

今日は、非常に天気良かったのでここまで自転車で来た。蔵本通りの公園とは反対側の道をずっと走ってきた。公園側には歩道とあわせると広々とした空間があるが、実際には歩道から川の間にはたくさんの樹木があり、段差もあることがよくわかった。先程ご意見もあったように、広い空間があるのに、一体感が無く、勿体ないと感じた。今後、具体的に再整備の検討をする中で、道路と公園の一体性に配慮されたデザインとなればよいと思った。

資料3の10ページのアクションプランに関する内容に「新たな運営方法の導入」との記載がある。素晴らしい公園ができたとき、行政が管理をすると、正直に言えばよいものにならないと思う。

先程のご意見にもあったが、カフェを運営する団体が、例えば遊具を貸し出す、利用の調整をするなど窓口機能を有することができれば、利用される方も市役所に申請を行うよりは取組を始めやすいと思う。

そうしたときに、その運営はお金を稼ぐことができないと続かないので、その仕組みをどうするかということは今後検討する必要がある。例えば、呉市内の大きな企業が、公園の取組に参画できる仕組みがある

と、運営に係る財政が潤っていくのではないかと、単純なイメージではあるがそう思った。

公園は生ものだと私は思っており、物を作り、時間が経つと、できた当時は評価が高くても見直しをしなければいけなくなってくる。

例えば遊具一つでも、長期間利用すると、老朽化も進むので、利用される方の意見を運営団体がうまく吸い上げること、また、収益を施設整備に還元することで、遊具等の更新がしていけるような管理運営に関する仕組みを今後検討できるとよいと思う。

○

社会実験について、既に出ている意見と重複するが、一つはトライする実験を是非実施して頂きたい。こんな使い方もやっていいという実績付けとしても意味のあることだと思う。

冒頭の意見でも述べたが、社会実験の期間中に100人程度の会議を開催し、その後の交流会をこの空間でできたらよいと考えている。これも、こんな使い方もできるという実証実験として実施できたら良いと考えている。

社会実験に当たっては、実際の運用を想定しながら実施内容を検討していけたらよいと思う。実際に運用する際に、「それは駄目です」、「こういう規制がありますから」となる可能性が高いことも多いのではないかと思う。例えば、食品の取扱についても、様々な規制があると思うが、合法的にクリアする方法も含めて実施できるとよい。

もう一つ、そのような新たなトライ・チャレンジをする際に、運営者側の収入として、お金を稼ぐ術も考慮しなくてはならない。例えば、このカフェで交流会を行う場合でも、会場費・備品代など収入となり得るものは諸々あり、それが空間の管理費などに循環するなど、ビジネスモデルを検討していく必要がある。

○

先程のご意見の使い方、大賛成である。まちづくりに関することをこの場所で勉強し、ご飯を食べてお帰り頂くということはすごくよいと思う。今後、そのような実績の積み重ねができればよいと思う。

現在、ここの売店建物を利用した実証実験において感じることであるが、PRや広告宣伝費まで対応が難しいと考えている。民間事業者が運

営面で参入したとしても、行政の方々も一緒に広報の協力を頂くことで認知度も上がってくると思う。

○

社会実験について、このエリアでいい空間を作っていけば、恐らく人は集まってくるだろうと思っている。

この空間が主要な回遊軸として位置付けられていることを考えると、ここから滲み出る部分が重要だと思う。例えば、商店街や商工会議所の方々が実施されるイベントなどうまく連携することで、回遊が生まれ、社会実験の一つの検証内容にもなると思う。

先程、パークマネージャーに関する話があったが、官民連携による運営体制の検討を進める中で、周辺の方々が応援団として参画できたり、お金の面でも盛り上げていくような仕組みなどが社会実験の中で検討できると次の取組に繋がっていくと思う。

田中座長から報告された高校生のワークショップについて、とてもよい取組をされていると感じた。この度の社会実験においても、チャレンジという部分に関して、高校生などの学生が、文化祭のように企画から運営まで一つの取組を実施できるとよいと思う。

岡山県津山市における事案をお話しする。津山市では、進学や就職のために多くの若者が市外へ流出していく状況があった。市外へ出ていくことはやむを得ないが、例えば、将来、Uターンで戻ってくる、若しくは、東京に住んでいても津山市で何かイベントなどがあれば、その時にはまちへ戻ってくるような、そのようなまちにしたいということで、まちづくりのイベントに学生達が積極的に関わりをもてるような取組をされている。

4年経てば、高校1年生だった学生が卒業して大学生になり、OBとして戻ってくる。新たに高校に進学した学生が取組に参加することで新しい繋がりが生まれてくる。そういった意味では、単年度ではなく、複数年続けることで、人の関わりの動きが見えてくるのではないかと思った。

○田中座長

高校生とのワークショップの後に生徒に感想を伺うと、「高校生であってもまちづくりに参加していてもいいという事に初めて気づいた」という話があり、将来的な人材育成という面でも重要と思う。

○新原市長

現在呉市で進めている、呉駅周辺地域総合開発の中で、駅や商業施設を結ぶデッキを整備する。その空間の賑わいづくりについて検討を進めているが、先程からご意見を頂いているパークマネジメントの内容に類似していると感じた。呉駅に関する取組に当たっては、アーバンデザインセンターという組織を立ち上げるが、どのようにお金を調達し、どのように空間を管理していくかを議論しているところである。現在ふるさと納税を活用した取組も進めているところである。

この取組も参考にしながら、今後、恒久的なパークマネジメントの在り方についても検討が必要であると思う。

○

先程の宣伝や広告費に関するご意見についての考えである。

社会実験では、1人でトライするには敷居が高く感じる。そのときに、例えば、既に活動をしている人とのコラボという形であれば、お互いのSNSのフォロワーなどの別の繋がりができてくるので、そういった形でトライ・挑戦ができるとよいと思う。

実験なので失敗しても大丈夫という考えをしっかりと打ち出せるとよいと思った。

○田中座長

実験として取り組めるとよい具体的なアイデアとして、青空図書館や椅子・テーブルの配置、また、堺川の対岸も、もう少し違う使い方を考えられるとよいのではないかというご提案を頂いた。

また、管理・運営の体制に関して、今後、パークマネージャーをどのように配置していくことができるか、社会実験としても何か検討してけるとよいというご提案を頂いた。実際の運営に向けて、お金を稼ぐ仕組みをどうつくっていくかということも今後検討が必要と思う。

そのほか、社会実験に色々な人が関われるような仕組みにできるとよいのではないかとのご提案があった。その仕組みを活用して、高校生など誰もが参画でき、コラボレーションすることで繋がりも広がっていくのではないかとのご提案を頂いた。

また、周辺の地域への回遊ということ考えると、商店街の方々と一体的に取組を進めていくことができるとよいというご提案があった。

最後に、全体的な考え方として、まちなか公共空間の活用の幅を広げていく実験であるとよいというご提案を頂いた。「ここまでやっていいのか」ということを試してみることで、この度の社会実験の考え方としてあるのではないかと思う。

○

最後に社会実験について補足する。

川をまちの中心にという視点が掲げられているが、前回の会議でも川沿いに水で遊べる遊具があると伺っており、既存の施設も活かしながら、水とも親しめるような取組ができたならよいと感じた。自然も楽しめる公園として緑も必要であると思う。

また、川沿いに、雨の日や暑い時期も過ごせるような日除けについても実証実験で取り組めていけたらよいと思う。

11:25

【閉会挨拶（江田副市長）】

委員の皆様におかれましては、本日も多くのご意見を頂きましてありがとうございます。本日は、この素敵な空間で活発な意見交換を頂いたことを大変嬉しく思います。

このような会議を、公園の中で開催するというのも、一つの活用の提案ができたのではないかと思います。このような使い方を示すことで、いろいろな使い方のアイデアが生まれてくるのだと思います。

本日のご意見をお伺いして、公共空間の中で、「こんな使い方したい」ということを、柔軟に受け止められる環境・仕組みづくりが大変重要であると、改めて感じました。

そのような新たな管理・運営方法の導入について、今後、引き続き皆さんと議論をしながら、内容を深めていけるとよいと思っています。

この度の会議では、計画の素案をお示ししましたが、委員の皆さまから頂いたご意見を一つの計画として整理できつつあると思います。並行して、今年度は、具体的なデザインを形にしていくための社会実験やワークショップに取り組んで参ります。

これは、新たな管理・運営や再整備に向けた一つのプロセスであります。この過程も大変重要であると思います。このプロセスの部分で、色々な方が関わり、様々なご意見を頂くこと、また、そのために、情報をしっかりと発信して、関心を持って頂くことが非常に重要だと感じています。

幅広く多くの方にご協力とご参加を頂きながら、空間を新しく作りかえていくことで、この場所に対する愛着が生まれてくると思います。委員の皆さまには、引き続き、ご支援を頂きますようお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

11:30

【閉会】